公民連携によるまちなか活性化をめざす QURUWA 戦略

取組のあらまし

取組団体　愛知県岡崎市

取組内容　「QURUWA 戦略」は、中心市街地活性化を目的として、公民連携事業を通じて拠点形成と回遊をめざす取組であり、乙川河川緑地や籠田公園などの公共施設整備や、商店街における道路空間活用を通じて、地域経済やコミュニティの活性化に成功している好事例である。

推進体制　６名（令和６年度）

予算等　80,987 千円（令和６年度）

1　愛知県岡崎市の概要

人口	38 万 3,915 人	令和６年１月１日現在（住民基本台帳人口）
職員数	1,925 人	令和６年４月１日現在（一般行政部門）
総面積	387.2 ㎢	令和６年１月１日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1　愛知県岡崎市の位置図

出所：岡崎市「第７次岡崎市総合計画」p.3

2　取組の背景・目的

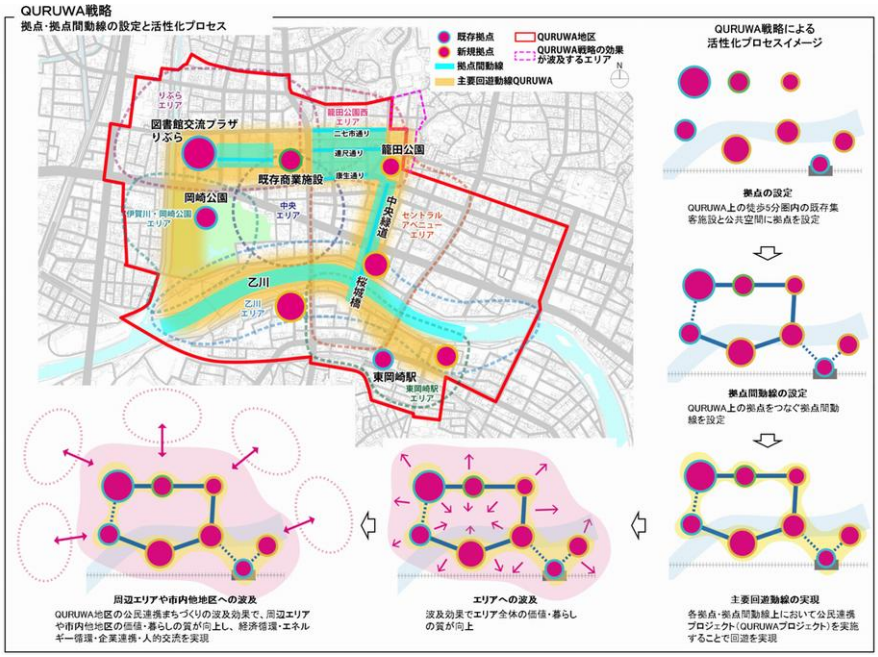
岡崎市の中心市街地は西三河有数の商業地域として繁栄していたが、1990 年代に入ると、ロードサイド型の大型ショッピングセンターの台頭により、衰退が進んだ。2000 年代には、中心市街地活性化施策が講じられたが、2010 年代にはピーク時と比べて、住民・労働者・事業者の数は３分の２に、商店は４分の１まで減少した。

「QURUWA 戦略」は、こうした状況に歯止めをかけるため、行政主導で推進されていた公共空間の再整備「乙川リバーフロント地区整備計画」をきっかけとして、2018 年から始動した公民連携によるまちづくり戦略であり、地域再生計画に位置づけ展開されている。

戦略の対象となっている QURUWA 地区は、乙川リバーフロント地区（ＲＦ地区）の名古屋鉄道東岡崎駅、乙川河川緑地、桜城橋、中央緑道、籠田公園、りぶら、岡崎城公園（2024 年 12 月 26 日に「岡崎公園」から改称）などの拠点を結ぶ約３キロメートルのまちの主要回遊動線であり、かつての岡崎城跡の「総曲輪（そうぐるわ)」の一部と重なること、また、動線が「Ｑ」の字に見えることから命名された。

QURUWA 戦略では、この地区内の公共空間を活用して、公共性を意識した民間（事業者市民[1]）を引き込む公民連携プロジェクト（QURUWA プロジェクト）を実施することにより、拠点形成と回遊を実現し、波及効果として、集客力強化とまちの活性化（暮らしの質の向上・エリアの価値向上）を目指している。

図表 2　QURUWA 戦略



出所：岡崎市ホームページ

[1] 事業者市民:責任を持って都市経営の一翼を担い、事業･産業と雇用の創出を通じて 地域の稼ぎと税収等の歳入を増やす公共性･公益性及び事業性を兼ね備えた市民

3　取組内容

QURUWA 戦略の実現に当たっては、エリアにおける拠点形成と連携のために QURUWA プロジェクトと呼ばれる事業が展開され、都市再生推進法人や拠点事業者等を推進役とする仕組みづくりに取り組んでいる。主な取組として、乙川のかわまちづくりや沿川公共用地の活用、籠田公園と中央緑道のデザイン性と活用性を高めた再整備、康生通り等における商店街の振興と合わせた道路空間活用等が挙げられる。

(1) 乙川のかわまちづくりや沿川公共用地の活用

東岡崎駅の北側に位置する岡崎市中心部を流れる乙川の沿岸エリアでは、「乙川かわまちづくり事業」や、「ＰＰＰ活用拠点形成事業(東岡崎駅北東街区)」が国のかわまちづくり支援制度、官民連携手法等を活用して推進されている。

かわまちづくり事業は、2015 年の「岡崎　泰平の祈り」や 2016 年の「おとがワ！ンダーランド 2016」等の社会実験を通じて、市民や観光客が楽しめる歩道の整備や緑地化が進められており、地域経済の活性化にも寄与している。

ＰＰＰ活用拠点形成事業(東岡崎駅北東街区)は、ホテル・レストランなどの複合施設オトリバーサイドテラスを整備する再開発事業であり、2019 年に施設が開設され、リバーフロントにおける集客拠点となっている。

また、東岡崎駅と市街地を結ぶ公園橋である桜城橋は、「街なかへのお迎え空間」として位置づけられており、ヒノキが香る歩行者専用の木装橋上公園として整備されている。コロナ等の影響により民設民営によるカフェなどの計画は実現に至っていないが、イベントとしての利用はもちろん、働く場や休憩する場所などとして利用されている。

図表 2　桜城橋と乙川

出所：「QURUWA と、」ホームページ及び岡崎市ホームページ「桜城橋利用ガイドブック」

（2）籠田公園と中央緑道の整備

乙川エリア以外の地区でも、「ＰＰＰ活用公園運営事業(籠田公園・中央緑道)」などを通じて、人道橋や緑道の整備が進められており、地域内の回遊性を向上させるとともに、回廊における公園などの拠点が整備され、住民や訪問者が快適に過ごせる環境が整備されている。

具体的な取組として、桜城橋を起点としてまちなかの籠田公園までを結ぶ中央緑道は、「道でもあり広場でもある」という「みちひろば」をコンセプトに、緑道と休憩施設が整備されている。また、籠田公園では「つどい・つながり・つづく」をコンセプトに暮らしの質の向上やエリアの価値を高めるための場所として 2019 年７月にリニューアルが行われ、再整備された公園空間が地域の交流拠点となっている。

こうした取組を、市民が参加するワークショップなどを積極的に開催することで推進した結果、籠田公園を中心とした３つの小学校区をまたいだ７つの自治会が主に参加する「QURUWA７町・広域連合会」による夏祭り（盆踊り）の会場として籠田公園が利用されるようになるなど、コミュニティ活動の拠点となる公園整備に成功している。また公園周辺ではリノベーションも進展しており、起業の場ともなっている。QURUWA７町・広域連合会では、QURUWA７町・広域連合会次世代の会が組織され、30～40 代の若手人材によるまちづくりの取組が進むきっかけとなっていることも注目される。

籠田公園では、夏祭りのほかにも、マーケットや公共空間を活用した多様なイベントの開催を通じて地域の賑わいを創出し、商業活動の活性化を図っており、季節ごとの祭りや文化イベントなどが開催されるなど、地域全体が一体となって盛り上がる機会が提供されている。

（3）康生通り等における商店街振興

QURUWA 戦略に関連した既存商店街における取組として、籠田公園と図書館交流プラザ（りぶら）を結ぶ中心市街地に位置する商店街、康生通り、連尺通り、二七市通りでは、魅力的な歩行空間づくりに向けた社会実験等が実施されており、回遊性強化を通じた商業振興が目指されている。

特に、康生通りでは、４メートル程度ある歩道幅員のうち３メートルを歩行スペースと再定義し、残るスペースを滞留空間として白いテープで明示し、沿道店舗がにじみ出す空間として商品を並べたり、まちの団欒スペースをつくる社会実験が実施され、歩行者空間利用の見直しのきっかけとなった。実際に康生地区では、取組の成果を活かして、軒先貸出場所の予約サイト「nokisaki-corin-のきさきこりん」が開設される等、商業空間においても新しい公共空間利用が浸透してきており、店舗の新規立地も進んできている。

また、康生通りでは QURUWA 戦略を通じて整備が進む公共施設を訪れる来訪者を商店街に呼び寄せることを課題として意識しており、商店街を QURUWA 戦略における第二の目的地と規定し、地域の情報発信の強化に取り組んでいる。例えば、乙川周辺を訪れる来訪者を商店街に呼び寄せるため、これまでの冊子型の情報誌「こりん（corin)」に加えて、「ぽけろーか

る」というスマートフォンで情報を検索できる地域密着型情報プラットフォームを新たに開設し、地域のイベントや店舗情報を効果的に発信している。

図表 3　康生通りにおける軒先の貸し出し場所例

旭軒元直前　【1日：1500円】　みどりや前　【1日：1000円】　（株）宝金堂前　【1日：1500円】

マルショウ前　【1日：1500円】　スギウラメガネ前　【1日：1500円】　ベルン洋菓子店前　【1日：1500円】

出所：康生通り軒先予約ホームページ

図表 5　情報誌「こりん（corin)」と情報プラットフォーム「ぽけろーかる」

出所：中心市街地活性化協議会支援センターホームページ

（4）情報発信

QURUWA 戦略における取組では広報活動に注力しており、岡崎市のホームページにおける事業紹介のほかに、「QURUWA と、」というポータルサイトを開設し、継続的な情報発信を行っている。「ニュースとイベント」、「人を知る」、「場所を知る」、「日常に触れる」、「QURUWA について」等のさまざまなジャンルから情報提供している。

図表 6　「QURUWA と、」

（出所）「QURUWA と、」ホームページ

4　成果・課題

（1）取組の成果

QURUWA 戦略は、地域の持続可能な発展を目指す長期的な視野を持ったプロジェクトとして、環境保全、文化継承、地域コミュニティの強化など、多岐にわたる取組が含まれており、公共空間の整備、利活用を通じて、地域全体が自律的に発展し続けるための基盤が構築されつつある。

ア　公民連携によるまちづくりの推進

市と民間企業、地域住民が連携して進める取組が成功し、公共空間の整備、利活用が進むとともに、地域全体での協力体制、まちづくり活動に対する参加意識が強化されている。

例えば、公共空間の活用については、2019 年の活用日数 265 日が 2021 年には 725 日にまで増加するなど着実に定着しつつある。これにより、康生通りにおける軒先の利活用等、地域の産業振興、起業促進の面でも効果を生み出している。

イ　地域経済の活性化

QURUWA 戦略により乙川リバーフロント等、川沿いの公共空間の充実によって、地域の魅力が向上し、地域経済の活性化にも貢献している。特に、2023 年度は NHK 大河ドラマ「どうする家康」の放映もあったことから、470 万人の入り込み観光客数を記録した。

籠田公園周辺等の整備を通じて、地域の賑わいが創出された。具体的には、これまで日中には見かけなかった子育て世代や学校帰りの学生などの滞在が増加し、新規出店も増加（2019～2021 年で 28 店舗、5 年連続で平均約 10 店舗）するなどの効果が見られた。さらに、公共空間における民間活動日数は、籠田公園の再整備前と比較して約 10 倍に増加した。また、QURUWA 上の路線価（13 か所の平均値）は、2013 年からの 11 年で 11%増加した。

ウ　公共空間におけるプログラムの充実と沿線の空き店舗を活用した暮らしの質の向上

公共空間において多様なプログラムが開催されることやその沿線の空き店舗を活用したコンテンツにより暮らしの質が向上するとともに、訪問者や地元住民の交流が促進された。籠田公園・中央緑道周辺における７町・広域連合の取組、新しいまちづくり会社 Q-NEXT の設立にみられるように、若手世代による地域コミュニティの活性化のきっかけともなっている。

（2）今後の課題

ア　中断している公民連携事業の具体化

拠点形成・回遊動線の整備や、まちづくりへの市民参加は着実に進展しているが、コロナ禍の影響などもあって、桜城橋における民営民設のカフェ等の開設や、コンベンション施設整備等、中断・中止した事業もある。QURUWA 地区における拠点、回遊動線の形成を通じたエリアへの波及、周辺エリアや市内他地区への波及を進めるために、こうした事業の具体化について改めて検討する必要がある。

イ　スモールエリアをプロデュース＆マネジメントする持続可能な運営体制の確立

QURUWA 戦略の推進組織として都市再生法人等のまちづくり会社が設立されているが、取組を長期的に維持するためには持続可能な運営体制の構築が課題である。特に、公共空間の維持管理やイベントの運営においても、運営主体の自立性を高めるために、自主事業を通じた安定した資金確保や人的リソースの確保が重要である。

ウ　戦略効果の波及

QURUWA 戦略の効果を地域全体に波及させるために、観光、商業にとどまらない、居住、産業、文化（遊び）的な活動の場としての地域整備を実現すること、東岡崎駅周辺の整備事業などをはじめ、インキュベーション機能の立地等を通じて、岡崎市全体の活性化に寄与する地域づくりを進めていくことなどが課題である。

関連・参考資料

岡崎市ホームページ
・QURUWA 戦略について
https://www.city.okazaki.lg.jp/1100/1184/1176/p022685.html
・コンベンション施設整備事業について
https://www.city.okazaki.lg.jp/1300/1303/1319/p023225.html
QURUWA と、（QURUWA ホームページ）
https://quruwa.jp/about/
中心市街地活性化協議会支援センターホームページ
https://machi.smrj.go.jp/machi/public/example/machidukuri-okazaki-2022.html
康生通り軒先予約ホームページ
https://okazaki-corin.com/